終戦80年

戦跡記念碑をたどる-5

ジュロン・クランジ防御線
JURONG-KRANJI DEFENCE LINE

2025年12月16日　史蹟史料部

戦跡記念碑 NO.4　ジュロン・クランジ防御線
JURONG-KRANJI DEFENCE LINE

設置場所 : Jurong West Street 42, Singapore 640551
（Jurong West Neighborhood Park, between Blocks 550 and 551）

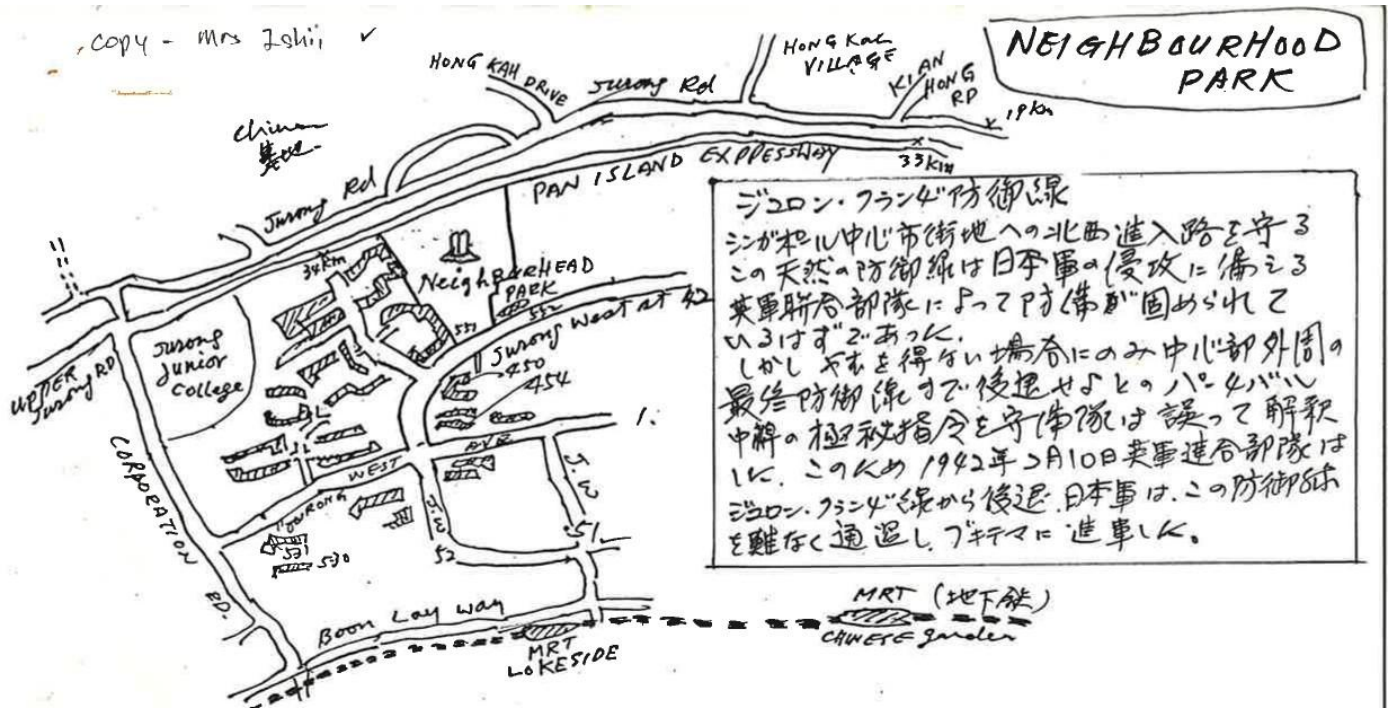
第 5 回目は、ジュロンの住宅街にある戦跡記念碑をご紹介します。

ジュロン・クランジ防衛線は、北西シンガポールの沿岸防衛部隊が日本軍に突破された場合に備え、連合軍部隊の撤退および再編成のために設けられた二つの後退拠点のうちの一つでした。

しかしながら、ジュロン・クランジ防衛線の準備不足および広大な防衛範囲のため、連合軍部隊はこの防衛線に沿って、かなり分散して配置せざるを得ない状況でした。さらに、1942 年 2 月 10 日における上級司令部での意思疎通の不備と統制の取れない行動が、事態をより一層悪化させました。

第 22 オーストラリア旅団のテイラー准将は、やむを得ない場合にのみ中心部外周の最終防御線まで後退せよとのパーシバル中将の極秘指令を誤って解釈し、自身の部隊を防衛線から都市周辺の最後の防衛圏へと時期尚早に撤退させました。この行動が連鎖的な撤退を引き起こし、防衛線は日本軍の進撃に対してほぼ無防備となってしまいました。

その日の午後に防衛線を陥落した日本軍は、ブキティマに進軍しました。これにより北部および東部に展開していた連合軍部隊は、都市周辺の防衛圏へと全面的に撤退を余儀なくされました。



佐々木賢一さん手書きの地図

当時この辺りはゴム園とマングローブ湿地帯、畑や小さな丘でしたが、現在この場所は HDB 住宅街の間の公園になっています。

1995 年建立当時の様子

2025 年現在の様子

文責：史蹟史料部　両頭真衣